

博 士 論 文 概 要

論 文 題 目

日本古代建築における様の研究

Study on the Tameshi of Ancient Japanese Architecture

申 請 者

小岩	正樹
Masaki	KOIWA

2013 年 12 月

本研究は、奈良時代を中心とした古代日本建築を研究対象とし、「様(ためし)」と記録に残る計画資料の内実や授受関係、機能の検討を通じて、当該期における建築造営の状況を示し、その社会的特徴について解明することを目的としている。

建築造営の歴史的背景を検討することは、建築史学のうちでも建築生産史学と呼ばれる。特に古代文明における建築造営では多くの組織と技能が関与し、人員や材の徴発などが集権的な政治体制のもとで直営的に進められるため、研究は当時の国家機構や制度を含めて考察する必要がある。そのなかで、本研究が対象としている日本古代の建築生産は、国史などの文字資料が残存する点、建築遺構が兼存する点、現在に到るまでの文化的な継続が認められる点などから、古代社会の研究分野として貴重である。この日本古代の造営工程において計画資料として機能した様に焦点を当て、記録ごとの様の内実や機能を復原し、その授受関係を明らかにすることで、従来不分明であった計画と施工を結節する多様な契機に照明を当て、当該期における造営状況の立体的な把握を試み、これらをもって日本古代建築像の新たな理解に寄与するものである。

本論文は、序論(2章)、本論(10章)、結論から構成されている。序論では、上記の研究目的や背景、研究方法を示し、続く本論は様の事例を個別に検討し、第1章から第7章が企画構想・設計の検討における様、第8章および第9章が実施施工の現場に登場する様の検討に相当し、第10章は奈良時代から平安時代にかけての様の語義または概念の変化について論じて、結論をまとめとした。

本論第1章「日本古代の建築の様に対する解釈」では、文献史料に残された様の事例収集を行い、それらに対する解釈の仕方について、問題提起と新たな方針提示を行った。建築の様は、書付け・図・模型などの諸形態があったと推察されるものの、史料上では具体的な資料形態までは明瞭ではなく、また現存する事例もない。既往の見解では、その資料形態を比定する研究姿勢が中心的に取られてきたが、当該期の他史料から導かれる様の原義が手本・見本・模範・規定・標準などであることと照合し、様とは特定の資料形態を指す語ではなく、工程上における影響関係によってそのように呼称された資料である点を指摘した。同時に、その機能・影響性の解明が当該期の建築生産像の把握へと繋がる点を指摘し、以下の各章の研究に対する指針とすることを述べた。

第2章「実忠の様と奈良諸大寺の小塔殿の建築形式」では、神護景雲年間(767-770)に東大寺僧・実忠が制作した小塔殿の様の影響性について述べた。小塔殿とは称徳天皇勅願の百万小塔を納める堂であり、現存遺構は存在しないものの、奈良諸大寺にそれぞれ建立されたことが諸記録より知られる。実忠の事績が集められた自伝的顕彰文である「東大寺権別当実忠二十九ヶ条事」には、自身の様により諸寺に小塔殿が建立されたと記されるが、文献史料に残るそれぞれの小塔殿の記録を比較検討した結果、諸寺の建築形式は必ずしも一定していない点を明らかにし、この場合の実忠の様の規範性には融通があった点を指摘した。

第3章「実忠の東大寺における造営事績とその活動形態」では、同じく東大寺僧・実忠が「東大寺権別当実忠二十九ヶ条事」にて記す多数の造営活動の具体を検証し、その参画形態を造営体制・関係性の側面から考察した。一般に、僧侶による造営への関与は役僧に就くことではじめて可能となるが、実忠の造営活動は、役僧としての活動のほかにも、高僧の良弁や朝廷が造営への参画を保証した点を明らかにした。また、その実忠の造営参画のあり方のひとつとして、計画資料である様の制作や提出が挙げられる点を指摘した。

第4章「天長年間の東大寺大仏修理にみる造営関係」では、具体的な造営事情が窺える記録が残る天長4年（827）の東大寺大仏修理を事例に挙げ、特に企画や計画のなされ方に着目して、造営の状況について述べた。本造営は、破損状況のとらえ方の相違から、修理方針の策定について紛糾した事例であり、その経緯が窺い知れる記録である。勅使、官人、工匠、僧侶などの多岐に渡る検討参画者について、それぞれの立場や相関関係について明らかにし、論議の場面を復原して、当該期における造営過程の状況のひとつとして提示した。

第5章「思託の西大寺八角塔の様」では、神護景雲年間（767 - 770）に渡来僧・思託が西大寺の八角塔の様を制作したとする『延暦僧録』の記録を取り上げ、様の内容や機能について述べた。西大寺の東西両塔は、称徳朝のもとで八角七重塔として着工するが、後に四角五重へと変更して実現された経緯がある。その工程を踏まえ、西大寺伽藍造営の進捗状況と照合しながら、思託の様はその当初計画に寄与したことを述べた。また西大寺四王堂にかつて存在した八角五重小塔は、着工した八角七重塔とは層数の相違はあるものの、思託が制作した様へと比定できる可能性を提示した。

第6章「国分寺および大安寺造営における図と様の関係」では、図や様といった建築計画資料の古記録上の表記のなされかたについて検討した。奈良時代における国分寺および国分尼寺の造営では、造営の促進を目的として中央政府から諸国に宛てて「図」が頒下されたが、類似した事業である中国随朝の文帝による仁寿舍利塔の造営では「様」が配布されたとあり、大安寺の造営では、留学僧・道慈が将来した唐西明寺の「図」によったとあるが、一部の史料には「様」と書かれる点を指摘し、両者が記録によっては近しいものとして捉えられていた可能性を指摘した。

第7章「古代における駅家建築の様」では、山陽道に配された長門国の駅家造営における様について論じた。大同元年（806）に律令政府は、山陽道の各駅家建築について修理の労力負担を軽減するよう勅を下すが、長門国の駅家新造にあたっては中央から様を送ることとした。その背景としては、財政逼迫による駅家建築の修理や維持整備が困難ななかでも、山陽道長門国駅家が外交使節の海上通過ルート近くに当たっていたために壮麗を示す目的があったことが挙げられ、そ

のための標準や指針を有効に示すために、様が具体的な情報媒体と考えられて用いられた可能性を指摘した。

第8章「石山寺造営における長上と将領の作材」では、天平宝字5年から6年(761 - 762)の石山寺造営において、建材製造の指示の場面における様について論じた。建材の準備は、石山寺近くの田上山にある山作所にて行われたが、実質的な現場監督者であった長上工・船木宿奈麻呂は、石山寺の工事現場にありながら田上山へと逐次必要な部材の製造を指示していた点を明らかにし、その伝達資料が様と呼ばれていたことを指摘した。また、情報伝達は事務官人である将領が担っていた点を検討し、将領も工匠に準じた一定の技術的理解を有していた可能性を指摘した。

第9章「石山寺造営における良弁の改作指示」では、同じく天平宝字年間の石山寺造営において、東大寺僧・良弁の指示によって仏堂建築の計画変更が行われた点に着目し、情報伝達の経緯と内容について検討した。変更は、軒先部材である「棉栢」の寸法値を修正するかたちで示されており、製作部材に関する指示のみではあるが、工程と仏堂建築の形式を復元した結果、屋根架構形式を変更する全体形状に関するものであったことが判明した。良弁は、その全体を理解して変更を指示したことが窺え、前章で述べたような工匠が部材製造を指示した様を、僧侶が撤回・修正を行った状況が明らかとなった。

第10章「古代における建築の様態の記述」では、後代の平安時代における様の語の用例に着目し、奈良時代との相違点について検討を加えた。平安時代に編纂された養老令の注釈書『令集解』では、前代にあたる奈良時代の様の説明として「物之形様」および「形制法式」と挙げられるが、前者の説く形容・ありさまと、後者の規範・規定としての性格では、解釈に差がある。この状況を踏まえ、平安時代末期の大江親通による南都諸寺の記録『七大寺日記』に頻出する様の表現を取り上げ、用法を検討した。その結果、前者の意味に相当することが分かり、それゆえ「形制法式」としての様の語義は失われつつある点を指摘した。

結論では、以上の各論の結語を要約し、総括的に述べた。造営の工程からみた様の機能や、授受関係からみた当該期における造営関連機関・人物の相互関係性について俯瞰的に検討した結果、様は、企画構想段階における検討の対象物、計画から工事実施への情報伝達資料、造営工事中における計画変更や建材調達のための資料などとして、工程の多岐に渡る過程で機能していたことが判明し、また、中央・地方政府、工匠、僧侶といった組織や人物の間で授受された点が明らかとなった。設計施工が一体とされ、特に設計活動の職能的専門性が不明瞭・未確立とされる古代建築造営体制においても、様は分業や造営への参画を保証する資料として機能した点を指摘し、そのような様を介した建築造営形態のモデルを提示した。様に焦点を当てることで、造営における活動形態の多様性が示され、日本古代建築の理解に新たな奥行きと意義を付与することができたと考えられる。

早稲田大学 博士（工学） 学位申請 研究業績書

氏 名 小岩 正樹 印

(2014年2月 現在)

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
論文	<p>小岩正樹、「東大寺における実忠の造営事績とその活動形態」、日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』第 696 号、2014 年 2 月、pp.507-516</p> <p>小岩正樹、「実忠の様と奈良諸大寺の小塔殿の建築形式 - 『東大寺権別当実忠二十九ヶ条事』における小塔殿の様の研究 その 1-」、日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』第 685 号、2013 年 3 月、pp.683-692</p> <p>小岩正樹、「天長年間の東大寺大仏修理にみる造営関係」、日本建築学会関東支部『日本建築学会関東支部研究報告集 審査付き研究報告集』第 7 号、2012 年 6 月、pp.165-168</p>
講演	<p>小岩正樹、「奈良時代後期における技術官人の出向について - 木工大工および長上工を中心に-」、日本建築学会『2013 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）』F-2、2013 年 8 月、pp.327-328</p> <p>小岩正樹、「巡礼記にみる建築の様相の記述 - 『七大寺日記』と『入唐求法巡礼行記』を例に-」、日本建築学会『2012 年度日本建築学会関東支部研究報告集』II、2013 年 3 月、pp.641-644</p> <p>小岩正樹、「田上山作所における長上工と将領の作材 - 日本古代建築における様の研究 その 6-」、日本建築学会『2012 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）』F-2、2012 年 9 月、pp.867-868</p> <p>Masaki Koiwa, 'Architectural Information Exchange at Nara Period, Japan', UIA2011 TOKYO Congress Academic Program, September 2011, Tokyo (Japan), Poster Session</p> <p>小岩正樹、「良弁の石山寺造営における改作指示について - 日本古代建築における様の研究 その 5-」、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.645-646</p> <p>小岩正樹、「古代における駅家建築の様について - 日本古代建築における様の研究 その 4-」、日本建築学会『2009 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）』F-2、2009 年 8 月、pp.457-458</p> <p>小岩正樹、「思託による西大寺塔造営について - 日本古代建築における様の研究 その 3-」、日本建築学会『2008 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）』F-2、2008 年 9 月、pp.5-6</p> <p>小岩正樹、「国分寺および大安寺造営における図と様の関係について - 日本古代建築における様の研究 その 2-」、日本建築学会『2007 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）』F-2、2007 年 8 月、pp.7-8</p> <p>Masaki Koiwa, 'Current Interpretation of "Tameshi" on Ancient Japanese Architecture', The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), October 2006, Daegu (Korea)</p> <p>小岩正樹、「建築における様の解釈について - 日本古代建築における様の研究 その 1-」、日本建築学会『2006 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2006 年 9 月、pp.83-84</p>
著書	<p>『東アジアの古建築図面の歴史と特徴』、韓国水原華城博物館、2012 年 10 月 （「日本の古建築図面の歴史と特徴」 pp. 31-84 の執筆を担当）</p> <p>渡邊保忠（故人）著 『日本建築生産組織に関する研究 1959』、明現社、2004 年 12 月 （全体の校訂と構成編集を担当）</p>
その他 （博士論文に 直接関係のないもの） （論文）	<p>小岩正樹・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・西本真一・中川武、「エジプト・ダハシュール北部で発見されたバシェドゥの神殿型貴族墓」、日本建築学会『日本建築学会計画系論文集』第 569 号、2003 年 7 月、pp.223-230</p>
（講演）	<p>佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯・山岸吉弘、「『木碎之注文』における厩の用語について」、日本建築学会『2013 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）』F-2、2013 年 8 月、pp.333-334</p>

早稲田大学 博士（工学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
その他 （博士論文に 直接関係のないもの） （講演）	<p>佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯・山岸吉弘、『木碎之注文』における門の木割について、日本建築学会『2012 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）』F-2、2012 年 9 月、pp.795-796</p> <p>山岸吉弘・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における鳥居の木割について、日本建築学会『2012 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）』F-2、2012 年 9 月、pp.797-798</p> <p>山崎幹泰・小岩正樹・米澤貴紀、「高岡市金屋町の町屋の平面分析 ―高岡市金屋町の町並みに関する研究 その 1-」、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.515-516</p> <p>佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯・山岸吉弘、「木碎之注文と洲本御大工斎藤家について」、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.655-656</p> <p>米澤貴紀・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・伏見唯・山岸吉弘、「木碎之注文に見られる寺社、建物、年紀、人物について」、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.657-658</p> <p>伏見唯・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・米澤貴紀・山岸吉弘、「大野老松天満社旧本殿と『木碎之注文』の木割」、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.659-660</p> <p>山岸吉弘・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における柱・組物・垂木の関係について、日本建築学会『2011 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）』F-2、2011 年 8 月、pp.661-662</p> <p>米澤貴紀・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・伏見唯、『木碎之注文』における輿について、日本建築学会『2010 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）』F-2、2010 年 9 月、pp.39-40</p> <p>佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における枘の寸法について、日本建築学会『2010 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）』F-2、2010 年 9 月、pp.41-42</p> <p>小岩正樹・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における多宝塔上重の枝割、日本建築学会『2010 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）』F-2、2010 年 9 月、pp.43-44</p> <p>小岩正樹・西本真一・中川武・柏木裕之・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・馬場匡浩、「ダハシュール北部で発見された新王国時代の建造物について 15 -タの神殿型貴族墓の断面復原案-」、日本建築学会『2005 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）』F-2、2005 年 9 月、pp.423-424</p> <p>江口千奈美・中川武・小岩正樹、『バイヨンシンボジウム』の課題と展望(4) -『バイヨン憲章』の立案-、日本建築学会『2005 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）』F-2、2005 年 9 月、pp.455-456</p> <p>小岩正樹・西本真一・中川武・柏木裕之・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・馬場匡浩、「ダハシュール北部で発見された新王国時代の建造物について 13 -タの神殿型石造貴族墓-」、日本建築学会『2004 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）』F-2、2004 年 8 月、pp.525-526</p> <p>西本真一・中川武・柏木裕之・小岩正樹・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・馬場匡浩、「ダハシュール北部で発見された新王国時代の建造物について 14 -タの神殿型石造貴族墓から出土した建築片-」、日本建築学会『2004 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）』F-2、2004 年 8 月、pp.527-528</p> <p>小岩正樹、「建築の仕様とその記載について -慶長・元和期の中井家文書より-」、日本建築学会『2003 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）』F-2、2003 年 9 月、pp.37-38</p> <p>小岩正樹・西本真一・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・中川武、「ダハシュール北部で発見された新王国時代の建造物について 9 -パシェドゥの神殿型石造貴族墓-」、日本建築学会『2002 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）』F-2、2002 年 8 月、pp.633-634</p> <p>西本真一・小岩正樹・吉村作治・近藤二郎・長谷川奏・中川武、「ダハシュール北部で発見された新王国時代の建造物について 10 -パシェドゥの墓のピラミディオン-」、日本建築学会『2002 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）』F-2、2002 年 8 月、pp.635-636</p>

早稲田大学 博士（工学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題名、 発表・発行掲載誌名、 発表・発行年月、 連名者（申請者含む）
その他 （博士論文に 直接関係のないもの） （著書）	<p>『木曾之注文（影印・釈文篇、解題・現代語訳篇）』、中央公論美術出版、2013 年 3 月 （全体執筆および編集を担当）</p> <p>『日本近代建築大全〈東日本篇〉』、講談社、2010 年 5 月 （「山梨県」「長野県」 pp. 246-261 の執筆および監修を担当）</p> <p>『早稲田大学大隈記念講堂保存再生工事報告書』、早稲田大学、2008 年 3 月 （「空間意匠に関する調査」 pp. 88-95 の執筆、および編集総括を担当）</p> <p>『幻都バンテアイ・チュマールの神々』、梧桐書院、2005 年 7 月 （全体編集の補助を担当）</p> <p><i>Master Plan for Conservation and Preservation of Bayon, The UNESCO/Japanese Funds-in-Trust for the Preservation of the World Cultural Heritage, June 2005</i> 『バイヨン寺院全域の保存修復のためのマスタープラン』、(財)日本国際協力センター、2005 年 6 月 （『The Bayon Charter(バイヨン憲章)』 pp. xix-xxvi の共同執筆、および全体の編集を担当）</p>
（報告書）	<p>『両国会堂実測調査報告書』、早稲田大学建築史研究室、2013 年 3 月</p> <p>『株式会社ジー・エム・イー田中社屋実測調査報告書』、早稲田大学建築史研究室、2012 年 3 月</p> <p>『築地本願寺慈光院本堂実測調査報告書』、早稲田大学建築史研究室、2012 年 1 月</p> <p>『鋳物師の町並み 金屋町・内免伝統的建造物群保存対策調査報告書』、金沢工業大学建築史研究室、2011 年 3 月</p> <p>『大乘寺伽藍詳細調査報告書』、金沢工業大学建築史研究室、2011 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区料亭花の里実測調査報告書』、早稲田大学建築史研究室、2011 年 1 月</p> <p>『墨田区文化財建造物調査報告集（平成 21 年度版）』、東京都墨田区教育委員会、2010 年 3 月</p> <p>『墨田区文化財建造物調査報告集（平成 20 年度版）』、東京都墨田区教育委員会、2009 年 3 月</p> <p>『東京都の近代和風建築』、東京都教育庁地域教育支援部管理課、2009 年 3 月</p> <p>『天徳院本堂・観音堂・庫裏・福宝殿・鐘楼・回廊 詳細調査報告書』、金沢工業大学建築史研究室、2009 年 3 月</p> <p>『東京都新宿区宏明館調査概要報告書』、早稲田大学建築史研究室、2007 年 11 月</p> <p>『専長寺本堂・庫裏・鐘楼詳細調査報告書』、金沢工業大学建築史研究室、2007 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区照田家住宅実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2006 年 11 月</p> <p>『東京都新宿区旧中村彝アトリエ調査概要報告書』、早稲田大学建築史研究室、2006 年 11 月</p> <p>『東京都墨田区松本家住宅実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2005 年 11 月</p> <p>『祐天寺建築物文化財調査報告書』、東京都目黒区教育委員会、2005 年 8 月</p> <p>『東京都墨田区福島質店店蔵二棟実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2005 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区三囲神社境内社頭名霊社社殿実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2004 年 10 月</p> <p>『東京都墨田区多聞寺山門実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2004 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区岡田商事社屋実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2004 年 3 月</p> <p>『目黒区近代建築物個別調査報告書』、東京都目黒区教育委員会、2004 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区三囲神社本社実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2003 年 3 月</p> <p>『東京都墨田区弘福寺大雄宝殿実測調査報告書』、東京都墨田区教育委員会、2003 年 3 月</p>